

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2902

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催方法		<input checked="" type="checkbox"/> 対面（ 浜田キャンパス ） <input type="checkbox"/> オンライン（同時・録画・資料提示） <input type="checkbox"/> その他（ 未定 ）	
	2. 正式科目名 副題	アジアのイスラーム世界			配当年次	2・3
	学問分野	番号	27	名称	社会科学系 その他	
3. 担当教員名	吉村 慎太郎					
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2023 年 9 月 12 日（火）～			2023 年 9 月 15 日（金）		
	9 : 00 ~ 16 : 20					
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数	5 人		9. 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>20 世紀初めに 1 億人規模であったムスリム（イスラーム教徒）人口は、今や世界の総人口（約 80 億人）の 23%（19 億人）以上に達していると報告されています。このように、拡大を遂げるムスリム人口とは裏腹に、好ましからざる情報ばかりがイスラームについてメディアを賑わしています。ジハード（「聖戦」）やテロ、それらを実践するがごとき「アルカーイダ」、「タリバン」、IS（「イスラム国」）など、いわゆる「イスラーム原理主義」組織に関連した情報はその例でしょう。また、一夫多妻（「四人妻」）やヴェールといった女性蔑視とみなされる慣習、豚肉を食することや飲酒の禁止などの戒律も、イスラーム・イメージを損なう材料になっているようです。こうした負のイメージが拡散しながらも、なぜイスラームは信者数でキリスト教徒人口（約 24 億人）に迫る「世界宗教」になっているのでしょうか。</p> <p>本授業では、7 世紀のアラビア半島に起源を持つイスラームの成立前のメッカ・アラブ社会の特質、そこでの布教と迫害の問題をまずは取り上げます。その後、イスラームの基本的教義を概観し、この教義に沿って成立し繁栄したオスマン帝国が西洋世界の関係の中で衰退に向かう歴史的な変容（宗教と政治・国際関係の運動）の背景、そして欧米から見たイスラーム世界やアジアをめぐる「オリエンタリズム」を検討します（以上前半）。これらを踏まえううえで、中東を中心に現代アジア地域に広がるイスラーム社会の事例に目配りしながら、ムスリムの生活文化や女性・ジェンダー問題、民主主義・経済、さらに現代の紛争・対立とイスラームの関係性について、後半の授業で取り上げます。以上を通じて、授業全体としてアジアにおける歴史的な動態性と多様性を有するイスラーム世界の諸相を理解する授業内容にしていきます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の歴史、宗教、社会、文化についてのステレオタイプのイメージや偏見を排除・是正し、基礎的知識を身につけることができる。 ・多角的視点から、イスラーム政治・社会に横たわる内在的論理に加え、他律的な性格を理解することができる。 ・アジアに広がる「異文化世界」へのアプローチに必要な具体的な認識を育むことができる。 <p>第 1 回：ガイダンス：授業の進め方、「宗教」、イスラームの特性、 第 2 回：「ジャーヒリーヤ期」のアラブ・メッカ社会 第 3 回：イスラーム初期の歴史（視聴覚教材使用） 第 4 回：イスラームの基本的教義（1）、講義後、小テスト①実施 第 5 回：イスラームの基本的教義（2） 第 6 回：近代西洋とオスマン帝国—繁栄と衰退 第 7 回：「オリエンタリズム」論 第 8 回：前半の授業に関する受講生の意見発表、小括、小テスト②実施 第 9 回：イスラーム世界における生活文化（食・暦・祝祭など） 第 10 回：イスラームと女性、ジェンダー 第 11 回：イスラームと民主主義・経済 第 12 回：イスラームと紛争・共生、講義後、小テスト③実施 第 13 回：「宗教宗派対立」とイスラーム（視聴覚教材使用） 第 14 回：現代ヨーロッパにおける「ムスリム問題」 第 15 回：後半の授業に関する小括、受講生の意見発表、講義のまとめ 第 16 回：最終試験</p> <p>（尚、進捗具合を見ながら、以上の授業計画を若干変更する場合があります）</p>					

11. 試験・評価方法	集中講義の各最終時限（4コマ目）には、簡単な小テスト（空所補充問題10問）を行います（計3回）。また、16回目には小テストと同様の空所補充問題（30問）に加え、論述問題（テーマは事前通知）からなる最終試験を行います。それらの結果と、授業中の積極性（意見発表）をまじえて、総合的に評価します。		
12. 別途負担費用	毎回、講義担当者が作成したパワーポイントと附属資料をスクリーンに映しながら、それに従って講義を行います。それ故、事前に購入してもらう特定の教科書はありません（講義資料は受講生に限り、その都度ダウンロードできるようにしたいと思いますので、各自持参したパソコン上でダウンロードした関係資料を見ながら、講義を聴いてもらって構いません）。下記の日本語参考文献は、適宜関心をもった事項との関わりで、幾つか選んで副読本的に閲読してもらえればと考えます。		
13. その他特記事項	<p>【参考文献】</p> <p>『コーラン』（上中下巻、井筒俊彦訳、岩波文庫、1957年）。</p> <p>板垣雄三・後藤明編『イスラームの都市性』（日本学術振興会、1993年）。</p> <p>臼杵陽『イスラームはなぜ敵とされたのか』（青土社、2009年）。</p> <p>エドワード・W. サイド『オリエンタリズム』（上下2巻、今沢紀子訳、平凡社ライブラリー、1993年）。</p> <p>大川玲子『コーランの世界』（河出書房、2005年）。</p> <p>片倉もとこ『イスラームの日常世界』（岩波新書、1991年）。</p> <p>加藤博『イスラーム世界論 トリックスターとしての神』（東京大学出版会、2002年）。</p> <p>加藤博編『イスラーム地域研究叢書6 イスラームの性と文化』（東京大学出版会、2005年）。</p> <p>加藤博『「イスラーム vs. 西欧」の近代』（講談社現代新書、2006年）。</p> <p>小杉泰『イスラームとは何か—その宗教・社会・文化』（講談社現代新書、1994年）。</p> <p>小杉泰編『増補 イスラームに何がおきているか 現代世界とイスラーム復興』（平凡社、2001年）。</p> <p>酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域研究叢書5 イスラーム地域の国家とナショナリズム』（東京大学出版会、2005年）。</p> <p>佐藤次高『イスラームを知る1 イスラーム 知の営み』（山川出版社、2009年）。</p> <p>塩尻和子・池田美佐子『イスラームの生活を知る事典』（東京堂出版、2004年）。</p> <p>塩尻和子『イスラームの人間観・世界観』（丸善出版、2008年）。</p> <p>末近浩太『イスラーム主義—もう一つの近代を構想する』（岩波新書、2018年）。</p> <p>鈴木董『オスマン帝国 イスラームの柔らかい専制』（講談社現代新書、1992年）。</p> <p>内藤正典『イスラームから世界を見る』（筑摩書房、2012年）。</p> <p>中田考・飯山陽『イスラームの論理と倫理』（晶文社、2020年）。</p> <p>中村廣治郎『イスラーム 思想と歴史』（東京大学出版会、2012年）。</p> <p>羽田正『〈イスラーム世界〉とは何か』（講談社、2021年）。</p> <p>森本一夫『イスラームを知る4 聖なる家族 ムハンマド一族』（山川出版社、2010年）。</p> <p>山岸智子・飯塚正人編『イスラーム世界がよくわかるQ&A 人々の暮らし・経済・社会』（板垣雄三監修、亜紀書房、1998年）。</p> <p>山根聡『イスラームを知る8 4億の少数派 南アジアのイスラーム』（山川出版社、2011年）。</p> <p>【その他】</p> <p>本授業は原則、対面形式で行います。新型コロナウイルスの集団感染や自然災害の影響で、対面授業が難しくなった場合は、Zoomを用いたオンライン授業に切り替えるなど、適宜必要な措置を講じます。それに伴って、授業計画・評価方法に一部変更が生じる場合もあります。その際は、事前にお知らせいたします。</p>		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。